

乳幼児発育曲線

(0~6歳)

2010
年度版

男児版

表面

乳幼児発育曲線
(在胎期間別出生時体格曲線：初産)

裏面

乳幼児発育曲線
(在胎期間別出生時体格曲線：経産)

総監修

板橋 家頭夫
昭和大学医学部小児科学講座 教授

監修

伊藤 善也
日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域 教授

田中 敏章
たなか成長クリニック 院長

乳幼児発育曲線（0～1歳、1～6歳）について

総監修 板橋 家頭夫 昭和大学医学部小児科学講座 教授

乳幼児の成長や栄養評価、疾病の診断の一助として「乳幼児発育曲線（0～1歳、1～6歳）」のグラフを作成した。小児の体格基準値は、日本人の体格変化のトレンドが終了した2000年の値に固定することが望ましいとされている¹⁾が、母子健康手帳では現況値として2010年の調査結果による発育値を掲載している。そこで、本冊子「乳幼児発育曲線」も2010年の数値^{2) 3)}を基にLMS⁴⁾法により作成した。

周産期母子医療に携わる方々には、冊子「在胎期間別出生時体格曲線」とともにこちらをお手元に置いていただき、必要に応じて活用いただければ幸いである。

なお、本冊子活用にあたっての留意点は下記の通りである。

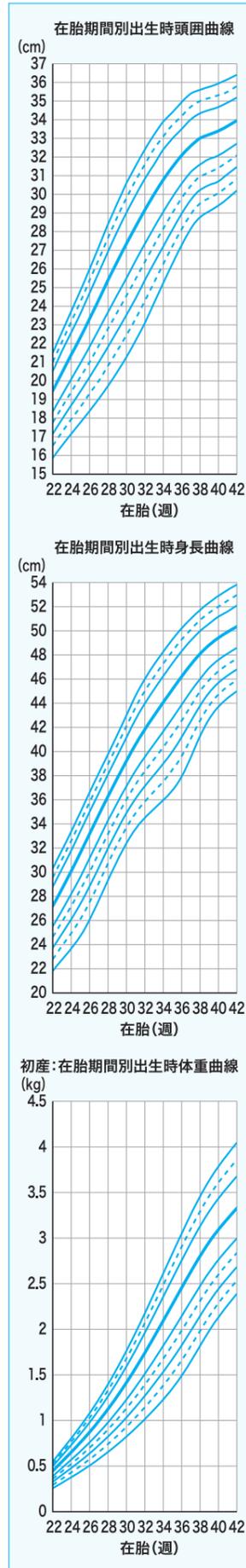
(板橋家頭夫：在胎期間別出生時体格曲線、乳幼児発育曲線について教えてください。成長障害診療 Q&A 69：2015 より引用)

- ①母子健康手帳に記載されている乳幼児身体発育曲線は2010年調査に基づいている。2010年調査では対象の生後4～5カ月の母乳栄養率は約56%であるが、作成の対象となった児の乳汁栄養法は一定ではない。
- ②治療的介入を要する身長異常の評価は、2000年調査に基づく乳幼児身体標準値を参考とする。
- ③生後3カ月までの体重増加率は25～30g/日が目安となる。
- ④乳幼児の肥満や過体重は小児期の肥満のリスクになる。
- ⑤パーセンタイル曲線において乳児期に上向きに2～3つ以上のチャンネルをまたいで急速に増加する例は小児肥満のリスクが高いと考えられるため、その後のフォローが必要である。
- ⑥乳児期の肥満や過体重のリスク因子として、高出生体重、母体の妊娠前肥満・過体重、母体の喫煙、人工栄養があげられる。
- ⑦体重増加不良が主体の failure to thrive (FTT) の大部分は2歳までにみられることが多いが、normal variant かどうかの判断が重要である。
- ⑧低身長は一般に標準値の-2SD未満とされる。
- ⑨低身長に対して治療的介入が必要かどうかを判断する上では、家族性低身長、体質性低身長、特発性低身長を鑑別する必要がある。
- ⑩早産低出生体重児の成長や発達は出生予定日を基準に修正月齢で評価することを原則とする。正期産低出生体重児については暦年齢で評価する。
- ⑪NICU入院中の情報は、早産低出生体重児のフォローアップを行う上で欠かすことはできない。
- ⑫子宮外発育不全 (EUGR) を伴う早産低出生体重児は、成長・発達遅滞のリスクが高い。

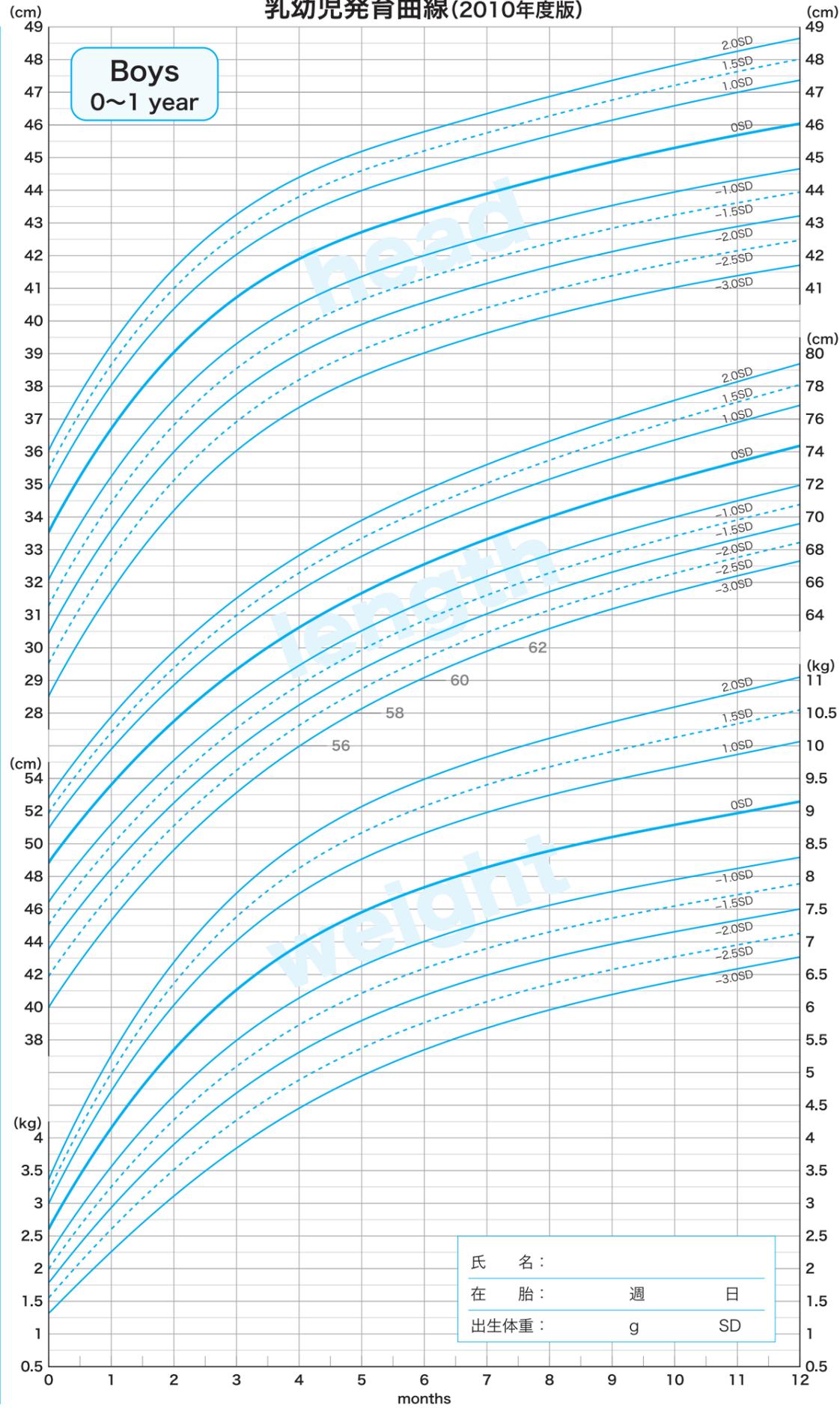
文献

- 1) 乳幼児身体発育評価マニュアル：平成23年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究」、2012年
- 2) 加藤則子、瀧本秀美、吉田穂波ほか：乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査。保健医療科学 63(1)：17-26, 2014
- 3) 平成22年乳幼児身体発育調査報告書(概要) [http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001tmct-att/2r9852000001tmea.pdf]
- 4) Cole T.J.：Fitting smoothed centile curves to reference data. *J R Statist Soc A* 151(3)：385-418, 1988

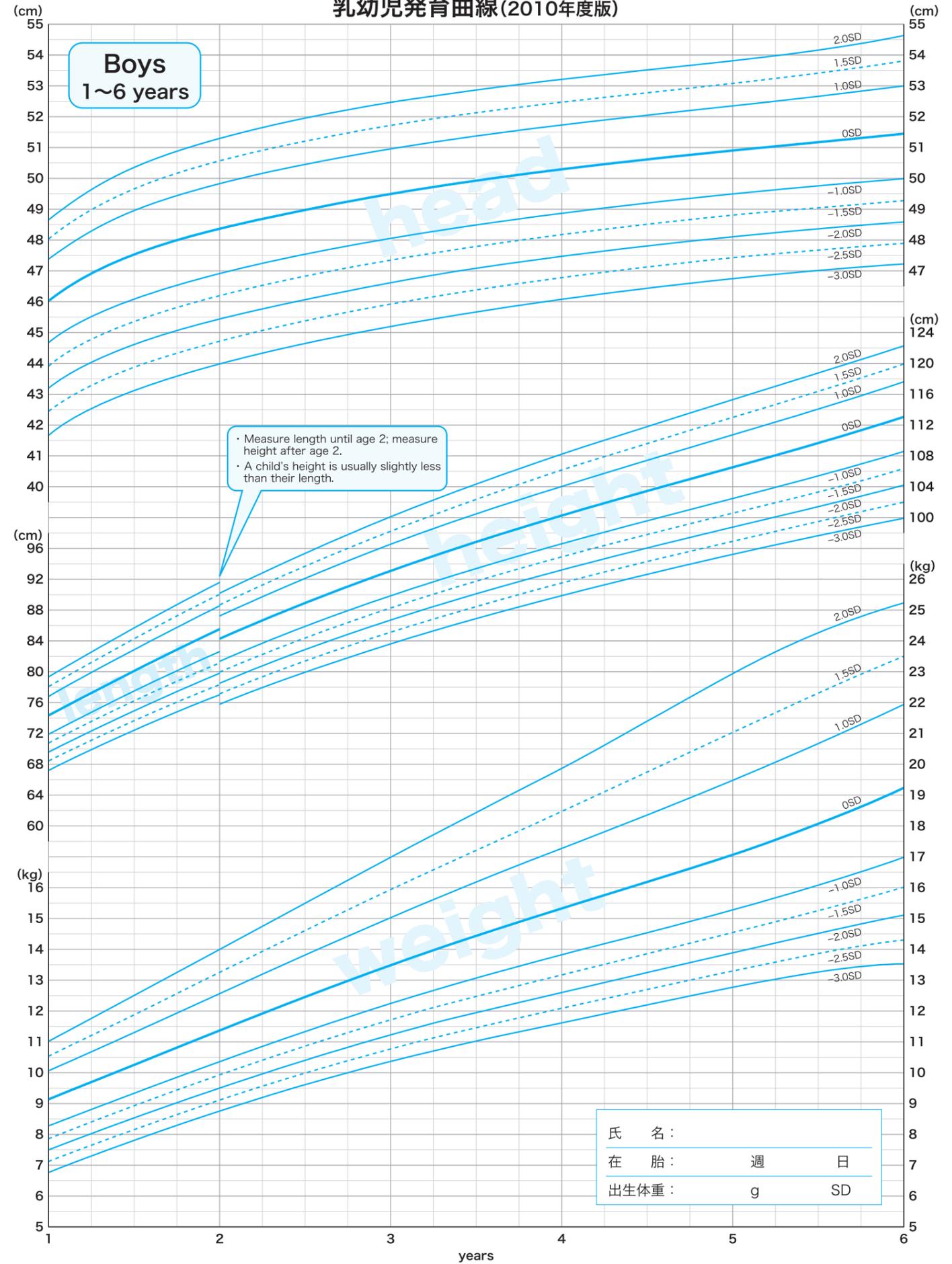
初産用



乳幼児発育曲線(2010年度版)



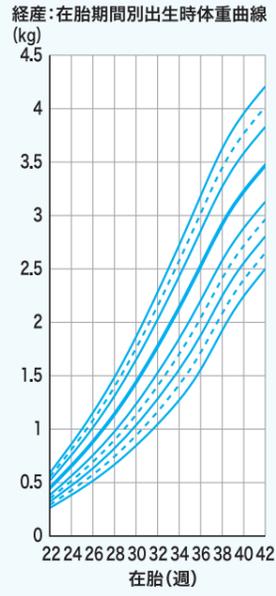
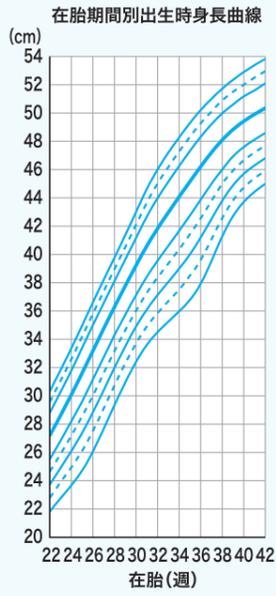
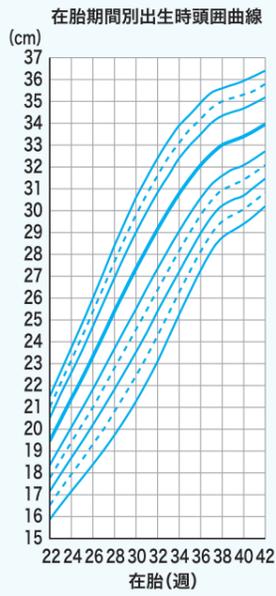
乳幼児発育曲線(2010年度版)



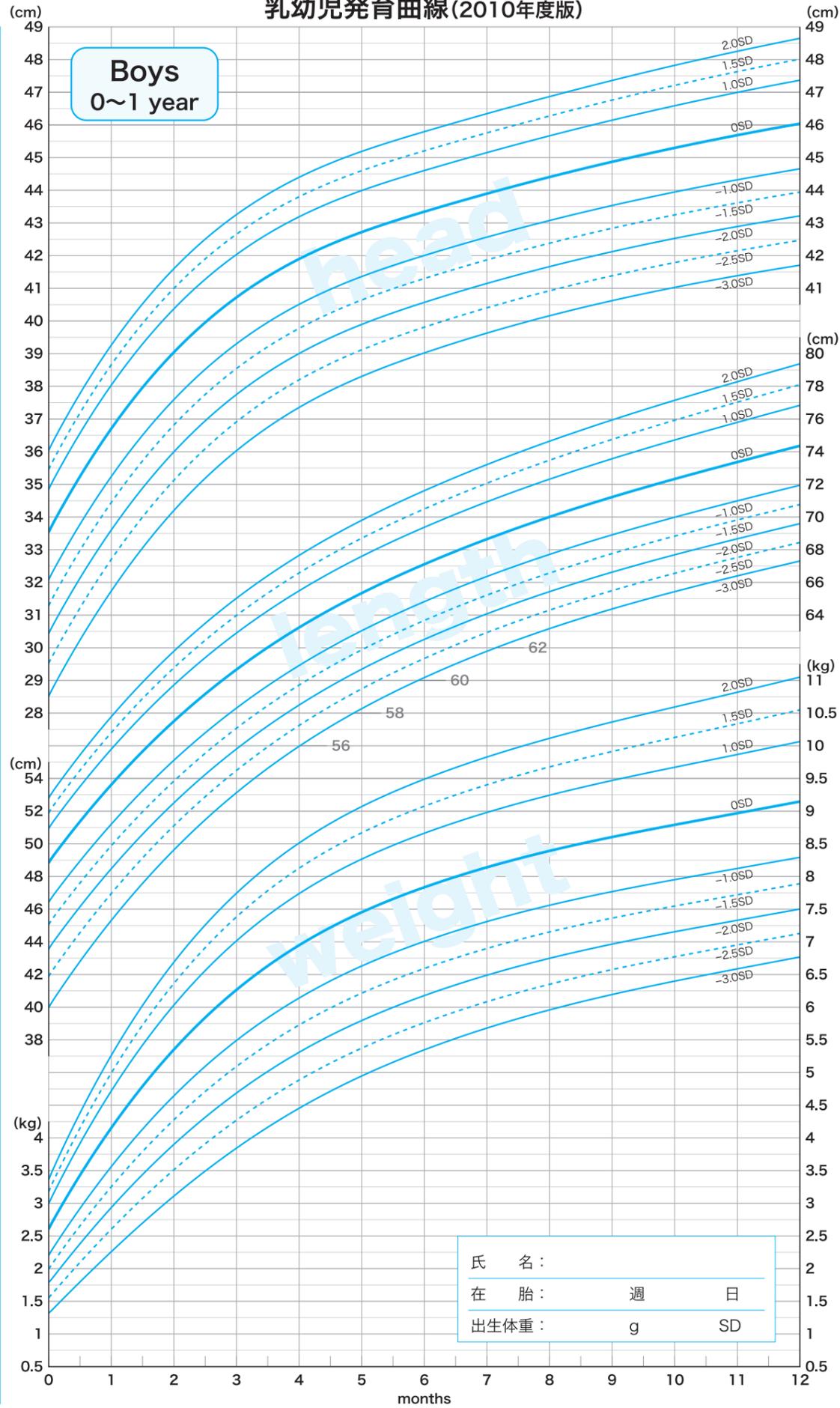
出典：平成22年乳幼児身体発育調査報告書(概要)を基に作成
参考文献：乳幼児身体発育評価マニュアル：平成23年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究」, 2012年
加藤則子、瀧本秀美、吉田穂波ほか：乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査。保健医療科学 63(1)：17-26, 2014

総監修：板橋家頭夫 監修：伊藤善也、田中敏章 企画・発行：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 編集・制作：株式会社メディカルレビュー社 ©日本母乳哺育学会一般社団法人

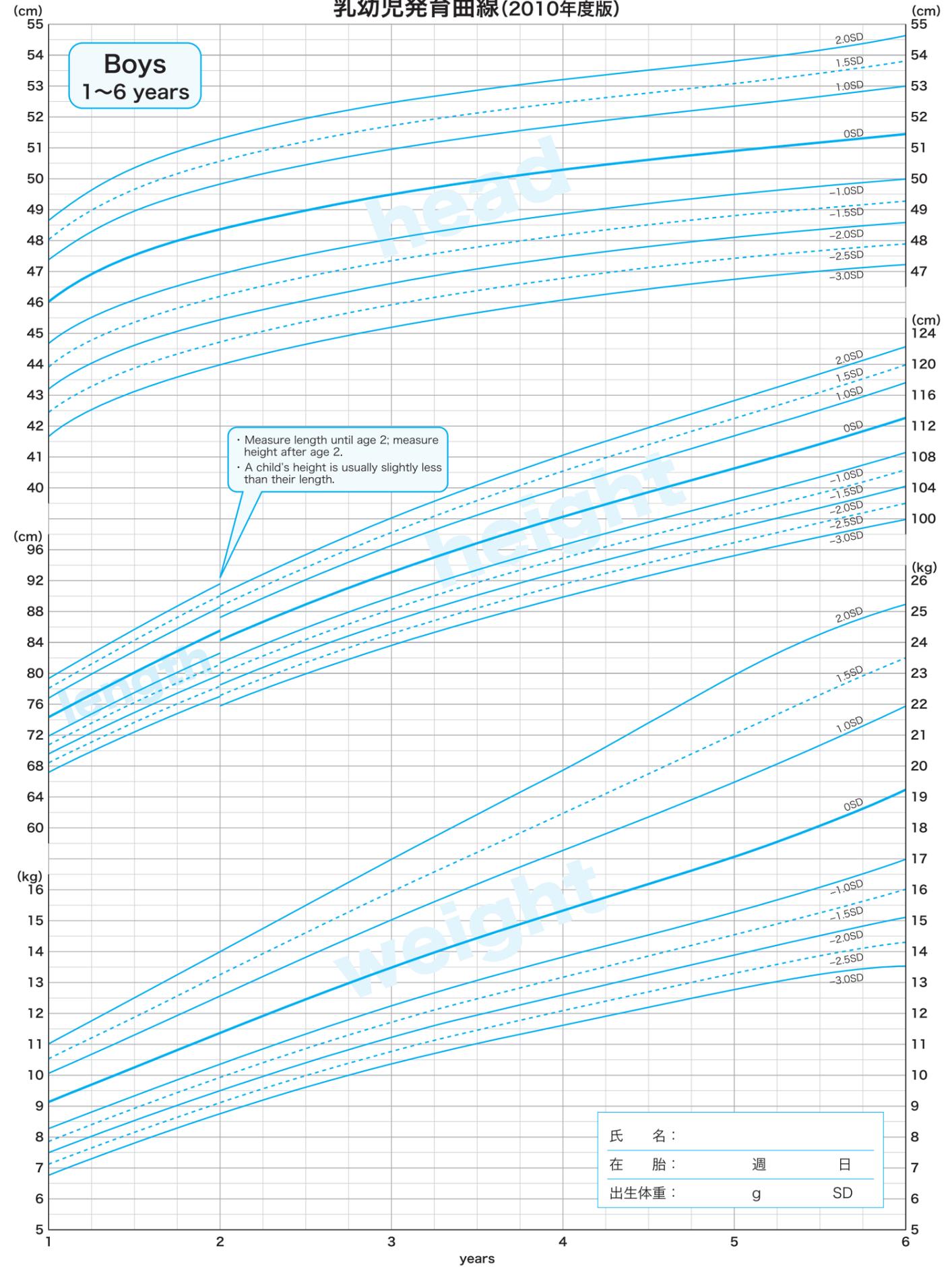
経産用



乳幼児発育曲線(2010年度版)



乳幼児発育曲線(2010年度版)



出典：平成22年乳幼児身体発育調査報告書(概要)を基に作成
参考文献：乳幼児身体発育評価マニュアル：平成23年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究」, 2012年
加藤則子、瀧本秀美、吉田穂波ほか：乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査。保健医療科学 63(1)：17-26, 2014

総監修：板橋家頭夫 監修：伊藤善也、田中敏章 企画・発行：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 編集・制作：株式会社メディカルレビュー社 ©日本母乳哺育学会一般社団法人